



NEWS

2010 No.236

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

11月号

第6回通常総会を開催

新年度は25周年への集大成と次世代への飛躍がテーマ 「エコひろば」やリターナブル梱包材でサービス充実 NGPシステムもサーバーを刷新し新展開

第6回
通常総会を開催
創立25周年
に向けて

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月25日、東京都港区の「品川プリンスホテル」で第6回通常総会を開きました。来年のNGP創立25周年に向けて、全組合員の結束でさらに「強いNGP」を作り、お客様サービスの向上に努めることを確認しました。

総会の冒頭あいさつで、大橋岳彦理事長は、「(2010年8月期の決算で) 部品売上は400億円を突破しました。皆様の努力に敬意を表したい。一方、エコカー補助金が終了して使用済自動車の在庫台数が落ち込んでいるのではないかと思うのですが、厳しい環境に対してそれぞれ自助努力を重ね、頑張ってもらいたい」などと述べました。

新年度の事業計画では、「25周年への集大成、そして「次世代」へ」というテーマを設定し、これまで取り組んできたNGP協同組合のビジネスモデルの集大成と今後の飛躍に向けた新たなビジネスモデルの創造を目指すことにしています。「企業の寿命は30年」などと言われる中で、NGP協同組合の事業も新しい対応を求められるようになってきたからです。

背景としては、次世代自動車の普及にともなう技術革新や素材革命、それによりアフターマーケットそのものが劇的な変化を遂げると考えられること、さらに自動車リサイクル業界についても次世代自動車の適正処理、次世代自動車に欠かせない資源循環の必要に迫られ、場合によって自動車メーカーとの連携することなど、さまざまな対応課題が考えられるからです。

総会はこうした基本方針を設定した平成22年度(22年9月～23年8月)の事業計画などを審議し、満場一致で承認しました。事業計画に沿ってさまざまな事業活動に取り組み、お客様の満足度向上に努めます。

整備事業者様向けのサービスでは、総会に先立ち10月1日から「NGPエコひろ

ば」をスタートさせています。この新事業は、ウェブサイトを通じて整備事業者様に自動車ユーザーのお客様を紹介する仕組みです。「エコ整備」を求める自動車ユーザーは、年々その数が増えています。そうしたお客様にリサイクル部品の良さを知ってもらい、安心して環境に優しい自動車整備・修理サービスを楽しんでもらうことをねらいとしています。

また、NGP協同組合独自の二酸化炭素(CO₂)排出削減活動として「リターナブル梱包材」の利用を2009年3月から取り組み始めました。09年度のNGP協同組合のリサイクル部品販売は、点数で前期比9.1%増の232万点となり、これにより約8910トンのCO₂排出削減を達成しました。これに加えてリターナブル梱包材を利用したことで、部品物流の場面でも今年1～8月で60.7トンのCO₂排出削減を達成し、ダンボールなどの一般廃棄物の削減にもつながっています。

現在、リターナブル梱包材はドア・フェンダー用ですが、すでにバンパー用の梱包材の開発が終わり、さらにエンジン用リターナブル梱包材の開発を始めているところです。種類を拡大してリサイクル部品の物流面での環境負荷低減を進め、リサイクル部品のCO₂排出削減効果に磨きをかけて行きます。

今期は、ハードウェアが5年経過したた



総会で新たなビジネスモデル構築を呼びかける大橋理事長

め基幹システムのサーバーを入れ替えます。これに合わせたシステム改良を実施し、とりわけリサイクル部品の生産効率向上に努めることにしています。また、在庫車両を電子マニフェストと連動して管理できるようにし、お客様からの信頼向上につなげることにしています。品質の高いリサイクル部品を素早く整備事業者様にお届けすることを目指して開発中の「画像計測システム」も徐々に形になってきています。情報システム面でも次世代に向けた準備を着々と進めることにしています。

来年はNGP創立25周年を迎えます。式典を10月に福岡県福岡市の「ヒルトン福岡シーホーク」で開く予定です。原動力となる有能な若手経営者も育ってきています。NGP協同組合の飛躍とさらに充実したお客様サービスの提供にご期待ください。

NGP協同組合幹部が総会終了後に恒例の記者会見

「在庫車両の急激な減少が、組合員が直面する課題」 (大橋理事長)などと答える



記者会見に臨むNGP協同組合幹部(左から宮地専務理事、田中副理事長、大橋理事長、永田副理事長、砂原副理事長)

NGP協同組合の大橋岳彦理事長ら幹部は10月25日の総会終了後恒例の記者会見に臨み、各紙誌記者からの質問に答えました。会見の冒頭に大橋理事長は、総会が無事終了したこと、NGP協同組合の部品売上が2010年8月期で初めて400億円の大台を超えたこと、期中にNGP組合員の使用済み自動車処理台数は78万4千台に達し、国内発生量の約20%をNGP組合員により適正処理したこと、などを報告

しました。

また、「エコカー補助金で処理台数は増加しましたが、終了後に急激に在庫が落ちていることが喫緊の課題。一方、レアアースの問題に見られるようにNGP協同組合としても資源循環に積極的に取り組み、貢献しなければならない」などと、課題について述べています。

早速、「資源循環に積極的に取り組む」ことに関して質問があり、大橋理事長は「解体事業者を巻き込んだ自動車メーカーによる資源回収の動きが表面化しています。話を聞くと、将来の資源枯渇などを見越した対応だそうで、自動車メーカーはどのような資源を必要としているのか、などの情報交換を行いたい。NGP協同組合として具体的に行動しているわけではないが、自動車メーカーあつての解体業なので相互補完で協力できることは協力したいと考えています」など

と答えました。

組合員が当面する課題に関する質問には、「エコカー補助金を実施されている間には、処理能力を超える使用済み自動車の在庫があった組合員もいたほどで、処理に追われて中古部品生産がまともに取り組めないほどでしたが、エコカー補助金終了後は仕入れが止まりました。今後11月、12月とさらに減少するとみられ、使用済み自動車の在庫減少は組合員が直面している課題です。部品については単価が下落し、生産金額が上がらないことが問題で、このなかでお客様のニーズを聞きながら新しい分野の部品の開拓を進めたいと考えています」(大橋理事長)と回答しました。

また、リターナブル梱包材の展開については、「09年3月にドア・フェンダー用の使用を開始し、今年9月末で累計1万6千回の利用がありました。バンパー用のリターナブル梱包材の試作が完成して、組合員による使用テストを終えました。近々、使用を始めたいと考えています」(宮地康弘専務理事)という状況です。

ハセ川自動車、テラダパーツ、桜井が平成21年度の年間最優秀賞に

NGP協同組合は10月25日に都内のホテルで開催した総会で、リサイクル部品の生産・販売に貢献した組合員に対して平成21年度「年間最優秀賞」などの表彰を行いました。

部品の売上金額・伸長率、生産金額・伸長率の4項目すべてで上位20位以内にランクインした事業者を対象にした年間最優秀賞は、ハセ川自動車(富山県魚津市)、テラダパーツ(愛知県刈谷市)、桜井(兵庫県尼崎市)の3社が受賞しました。また部品

売上金額・伸長率の2項目で20位以内に入った3R(埼玉県久喜市)、多田自動車商会(兵庫県三木市)、部品生産金額・伸長率の2項目で20位以内に入った津田鋼業(福井県越前市)、オートパーツ伊地知(鹿児島県鹿児島市)の4社が優秀賞として表彰されました。

例年行っているクレーム優良表彰に代えて今回は共有情報への協力者を表彰しました。共有情報は、部品商品化にともなう注意点、互換性などに関する情報を集約し、顧客サー

ビス向上に結び付けることをねらったもので、情報提供件数が多かったカンザキ(滋賀県東近江市)、佐伯商会(香川県高松市)、オートパーツ長野(長野県松本市)、堀尾自動車部品(兵庫県姫路市)が共有情報提供者協力者として、および安澤商店(福島県西白河郡泉崎村)の安澤康博さんら11社11名を共有情報検証協力者として感謝状を渡しました。



表彰を受ける最優秀賞受賞3社(桜井、ハセ川自動車、テラダパーツ)の代表者

NGP今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP平成22年9月: **6,642 t**

NGP1月からの累計: **59,020 t** (全12団体1月からの累計 **102,731 t**)

* NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP平成22年9月: **7.0 t**

NGP1月からの累計: **67.7 t**

* リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに代えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

NGPシステムが信頼性を高めた新システムに移行します！

順次、新機能を付加してお客様サービスを向上



本部で開かれた新システム検証会議、システム委員・初級講師が作動状況を確認した

NGPシステムがサーバー入替に合わせて新システムに移行します。新システムでは入庫した使用済自動車を電子マニフェストと連動させて処理状況を管理する新たな機能を盛り込むとともに、部品生産作業を効率化する機能を付加して高品質な中古部品をより早く提供することを目指します。

新システムへの移行準備を目的とした「新システム検証会議」が10月2日、NGP協同組合本部会議室でシステム委員、生産・フロントの各支部初級講師を集めて開かれました。新システムは多様な基本システムソフトで動くことができるようにプラットフォー

ムを大きく変更しています。この変更後の作動環境に問題ないかを検証会議を開き、確認しました。新システムは11月15日にリリースして全体で作動環境を確認、その後、さまざまな機能を付加することとしています。

機能面の強化では、入庫した使用済自動車を自動車リサイクルシステムの電子マニフェストに連動して管理するようにします。入庫車両がどのような状態にあるか、リアルタイムで把握して問い合わせに即応します。また、損害保険関連の事故車に関してはNGP本部で一元管理するようにします。

また、専用端末を導入して作業現場で生産

した中古部品の検品・登録を行い、生産業務を効率化する機能も加えます。現在、クレームや共有情報管理の電子化を進めています。新システムではこの共有情報がフル活用できるようになり、注文があった部品を利用する際の注意点に関してフロントマンが即答できる態勢とし、お客さまサービスの向上につなげます。

こうしたシステムの付加機能は今期中に実現することを目指しています。

現在、早稲田環境研究所との間でグリーンポイントシステムを新システムで利用するための交渉も始めています。新システムとグリーンポイントシステムによるリサイクル部品のCO2排出削減データベースと連動させることで、全てのお客様にリサイクル部品購入による環境貢献のデータを提供できるようにして、リサイクル部品をより多く使ってもらえる環境を整えたいと考えています。



使用済自動車判別ガイドラインの作成作業が佳境に

幅広く意見を求めるためにパブコメを実施

産業構造審議会、中央環境審議会の両ワーキンググループによる「使用済自動車判別ガイドライン」の審議が佳境に入っています。10月21日に都内のホテルで開かれた第3回合同会議は、最後となった地方自治体関係者に対する意見ヒヤリングを行うとともに、これまでに指摘された問題点を整理し、ガイドラインを取りまとめ作業のたたき台が示されました。

これまでのヒヤリングでは、大手の自動車ディーラーで初年度登録から15年を超過した車両を原則として使用済自動車にしていることが分かりましたが、その一方で走行距離、年式、査定価格や自走可能かどうかなどの項目では車両によって異なるため、一律の基準を作ることは難しいという指摘もあり、いろいろな視点からの意見が噴出してきます。

また今回、地方自治体の関係者から路上放置車両を処分するために判定表を作成して判別していること、ほぼ使用済自動車という車両が山積みされている現場の改善を求めると、所有者からは「中古車として購入したものだ」と強弁されるケースがあるなど、行



産構審、中環審ワーキンググループによる第3回合同会議。意見百出の観

政側の苦勞が報告されました。

このほか消費者の代表からは、下取り車を出した時に残存価値やさまざまな還付金、その後の処分について十分な説明など行われていないという声があり、半面、新車販売店関係の委員からは販売店の負担軽減を求める意見が出ています。判別ガイドラインに法的拘束力はありませんが、判断の結果で自動車リサイクル法違反ではなく廃掃法違反になるといった法律問題についての指摘も委員から出されていました。

合同ワーキングは、さらに広範な意見を求めてから使用済自動車判別ガイドラインの骨子をまとめることになりました。今後は、一定の成案がまとまってから行うパブリックコメントを実施、そこでの意見を加えて、12月に開催を予定する第4回合同会議で骨子案を示すことになっています。

第20回中級研修会を開催

仲間と励ましあって熱く学んだ5日間

ロープレ、技術研修と同時に管理者としての自覚を促す

NGP 協同組合の第20回中級研修会が10月4～8日の5日間、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所の東富士センターで開かれました。生産、フロント及び営業の3分野で18人が参加、ロールプレイングによる実践的な顧客対応、現物による中古部品生産に役立つ技術研修、管理者の自覚と熱意を引き出すマネジメント研修に取り組みました。

オートパーツ伊地知の保晋太郎さんは「管理者ということについてそれなりに理解していたつもりでしたが、一体どのようなこと

をすれば良いかということがあいまいだったり、どこから手をつけて良いか、難しいところがありました。それが今回の研修会で少しわかった気がします」と言います。また、青南商事仙台支店アルトレック塩竈の伊勢正文さんは「中級研修会はとても厳しいと聞いていましたが、実際に来て、ただのスパルタではないことに気づきました。5日間ほとんど眠れなかったのですが、仲間と話し合ったり、わからないところを教え合うなどで苦になりませんでした」と集中して取り組んだ5日間を振り返っています。

しのぶやみどり工場の小森歩さんは、「ロールプレイングをやったが、すごく恥しかった。自分は堅苦しいことができないので自分流で挑みました。部下に声をかけてあげる大切さを知ることができ、会社に帰ったら早速実践します」とし、研修成果を実践することを誓いました。

さらに「帳票、データを活用し正確な状況分析と顧客管理を実行し拡販を進めます」(福島リパーツ、熊田明正さん)、「問題解決能力を高め、お客様の不安や悩みの解決策を即答できるように知識をつけます」(徳島オートパーツ、山内裕子さん)、「強い意志と女性らしい心で部下(社員)一人ひとりと向き合い、会社をひっぱっていける存在になります」(エイティエム、島野望美さん)など、参加者それぞれが管理者として決意を新たにしました。



現場での部品生産に役立つ技術研修



それぞれ専門分野の研修で帳票の見方などを学ぶ マンツーマンの営業研修は効果もハイレベル



エコプロダクツ東北 2010 に東北支部が出展

リサイクル部品の普及を呼びかける



会員各社の生産者・フロントマンが会場スタッフとして参加

NGP 協同組合の東北支部(中里明光支部長)は10月14～16日に宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開かれた「エコプロダクツ東北2010」に出展しました。エコプロダク

ツ東北は、毎年12月に東京ビッグサイトで行われているエコプロダクツの東北版で、宮城県や仙台市、東北電力をはじめとした東北地区の有力企業とともに「エコプロダクツ・ソリューション・新エネルギー・省エネルギー」ゾーンにブースを設けました。自動車リサイクル業界では唯一の出展になります。

ブース内では、東北支部組合員のエコブリッジが製作した自動車のカットモデルやさまざまなリサイクル部品を展示しました。また、エコバッグ1500枚を用意してリサイクル部品のパンフレットとともに来場者に配布して、地球温暖化防止・CO2排出削減につながる自動車リサイクル部品の利用を呼びかけました。

子どもたちも東北支部のブースに興味津々



今回の東北支部の取り組みで特徴的だったことは、組合員各社の協力を得て生産・フロントの現場の人間を会場スタッフとして動員してもらったことです。現場のスタッフは、エンドユーザーと直接に接する機会は多くありません。大勢の人が集まる展示会でさまざまなユーザーと触れ合うことは、参加した各社のスタッフにとって良い勉強の機会となったようで、「展示会への参加が社員教育、人材育成にもつながりました」と中里支部長は話しています。

ちなみに今回の来場は3日間で1万290人(主催者発表)と1万人を超えています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp